

業務効率を劇的に 改善するRAG活用ガイド

社内情報を最大限に活用し、
意思決定を迅速化する
実践的な方法

Hikutas, Inc.



1. はじめに

社内文書が見つからなかったり、担当者が不在のせいで業務がストップしてしまったり——そんなモヤモヤを抱えていませんか？

本資料では、日々の業務で感じる"ファイル探しのストレス"や"情報共有不足"といった課題を、具体的な事例とともに整理しながら、「どうすればもっとスムーズに仕事が進むのか」のヒントをお伝えします。

漠然とした不満を抱えつつ、「どこから手をつければいいのかわからない」という方にとって、最初の一步となる情報が詰まっています。

まずは、**現状の課題（2章）**や、**それを放置するとどうなるのか（3章）**、そして**理想の未来像（4章）**をイメージできるようにまとめました。

たとえば、単純な書類探しの時間が大きなコストになっていたり、部署間の連携がうまくいかずイライラが募ったりと、日々の"あるある"が山積みになっているかもしれません。でも、もしこの状態を脱却できたら、どんなに快適に仕事が進むだろうと考えると、少しワクワクしませんか？

さらに本資料の後半では、**RAG（Retrieval-Augmented Generation）というAI技術を活用した具体的な解決策（5～7章）**をご紹介します、実際に導入した企業の事例（8章）も踏まえて、どのように活用が進んでいるのかをお伝えします。なかなか変化しない社内の状況を変えるために、AI検索システムを活用するという選択肢があるとしたら——少しだけ興味が湧いてきませんか？

「ファイル探しに振り回される職場」を卒業して「誰でも必要な情報をすぐに見つけられる」快適な環境へと進むためのステップを、惜しみなくお届けします。

ぜひ最後までお付き合いいただき、ご自身の組織の課題解決に役立つポイントを見つけていただければ嬉しいです。さあ、一緒に現状を整理し、理想の未来へ向かうヒントを探していきましょう。

2. 現状の課題

漠然と問題意識はあるのだけれど、一体何が課題なのかわからない。そんな方もいらっしゃると思います。ここでは、よくある代表的な課題を5つにまとめています。もし「これ、うちで起きてる…」と心当たりがあるなら、ぜひ読み進めてみてください。

(A) 情報探索・検索時間

「探し物が見つからない……。」

社内ファイルや資料がバラバラに保管されていて、必要なものを探すのに何十分もかかる。

業務時間を大幅に奪われ、ストレスや不満が溜まるばかり。

"もっと重要な仕事に時間を割きたいのに、どうしてこんなに探し物に手間がかかるんだろう…"という思いが常につきまといまいます。

(B) 社内情報の活用

「せっかくのデータやノウハウが埋もれている…」

社内に蓄積されたレポート、アンケート結果、ナレッジなどをうまく再利用できず、誰も見ないまま放置されがち。

"本当は宝の山なのに、どこにあるかわからない、探せない、活かせない"と感じると、もったいなさが募ります。

新しいビジネスアイデアや顧客提案に活かせるはずの情報を見つけられず、機会損失につながることも。

(C) 社内情報の共有 & 担当者不在・ノウハウ属人化

「部署が違えば話が通じない」「あの人がいないと仕事が止まる…。」

部門ごと、チームごとに情報共有が不十分で、やり取りの重複や伝達ミスが頻発する。

特定担当者が休暇・退職などで不在になると、業務が止まってしまうリスクが高い。

"属人化している知識やファイルを他の人が簡単に引き継げない"のが大問題。急ぎの顧客問い合わせにも対応が遅れ、信頼を損ねる不安も大きいです。

(D) 業務効率・作業効率

「どうしてこんなにムダな時間が多いんだろう？」

毎日のルーチンワークに追われ、「生産性が低いのでは…」と感じていても、具体的な打開策を見つけられない。

残業が増え続け、社員が疲弊する一方で、根本的な業務改善が進まない。

"探し物・重複作業・担当者待ち" など、気づけば時間が浪費され続けているケースも多いです。

(E) AI推進

「AI活用の波に乗れないまま、競合に遅れをとるかも…」

世の中ではAIを使ったデータ活用・自動化が盛んに進められているのに、自社だけなかなか踏み出せない。

"AI導入で業務改革を実現する企業が増えていると聞くと、うちは大丈夫なのかな"と漠然と不安を抱える。

DX（デジタルトランスフォーメーション）という言葉を目にして、何から手をつければいいのか分からず、実行できない状況です。

これらの課題が一つでも当てはまる場合、現状を「何となく」維持するのは危険信号かもしれません。

次章では、このまま放置してしまったときに起こりうるリスクと、そこから抜け出すための**第一歩**について、もう少し考えてみます。



3. その課題を放置するとどうなるのか？

■ A～B グループ：情報を探せない／活かしきれないまま、無駄が増大

情報探索 (A) に手間がかかりすぎる状況を放置すると、探し物の度に仕事が中断され、集中力が途切れてしまいます。いちいち作業が中断されれば、残業や焦りが増えるばかり。

社内情報の活用 (B) が不十分だと、せっかくのノウハウやレポートが活かされず、新しい提案やアイデアが生まれにくい環境になってしまいます。潜在的なビジネスチャンスを逃しているかもしれません。

■ C グループ：情報共有不足&属人化が重なり、業務がストップ

部署間の連携不足や担当者不在が続けば、同じ作業を繰り返したり、他の人が対応できずに納期が遅れたり、組織全体の効率が下がる一方です。

"あの人だけが知っている情報"が何年も更新されないまま放置されて、いざその人が休むと対応できない——こうしたリスクが蓄積すると、企業としての信頼にも悪影響が及びます。

■ D グループ：業務効率が低いまま、社員のストレスが増える

毎日がルーチン作業と探し物の連続なら、社員の不満は募り、離職リスクやモチベーションの低下に直結します。

生産性が上がらず業績にも悪影響が出ると、投資に踏み切る余裕もなくなり、悪循環から抜け出せない可能性が高まります。

■ E グループ：AI化の波を逃し、競争に後れを取る

AI活用で業務改革を進める企業が増えるなか、いつまでも旧態依然のやり方で頑張っていると、周囲との差は想像以上に広がるかもしれません。

いざ重い腰を上げて、キャッチアップに相当な労力がかかり、結果的にコストが増すばかりという展開にもなりかねません。

結果的に起こり得る"負のスパイラル"

これらの課題を放置するほど、「情報が見つからない」「担当者に依存」「生産性が上がらない」「競争に遅れる」といった要因が連鎖してしまいます。社員のストレスも増大し、モチベーションは下がり、さらにイノベーションも生まれにくくなる——まさに負のスパイラルです。

「業務が非効率だし、競争はAI導入で成果を出しているようなのに、うちは…」と感じているなら、今こそ行動を起こすタイミングかもしれません。

「なんとなく放置」していると、気づいたときには手遅れになってしまう可能性も十分考えられます。

4. 理想の未来像

もし、あのイライラやストレスを解消できる仕組みが整ったら、あなたの職場はどんな姿になりそうでしょうか。

たとえば、社内の情報検索が一瞬で終わるようになれば、探し物に費やしていた時間はぐっと減り、気づけば“残業が当たり前”の状態から抜け出せるかもしれません。余裕が生まれれば、スタッフ一人ひとりが本来の仕事に集中し、自分の強みを活かせる場面も増えていくでしょう。

同時に、蓄積されたデータやナレッジをしっかりと活用できるようになれば、同じ資料を作り直すような非効率も自然となくなります。過去の成功事例やノウハウが誰にでもアクセスできる形で残っていれば、新しいアイデアや迅速な意思決定がどんどん生まれやすくなるはずです。部署や担当者ごとに情報が閉じていた状態から解放され、衝突や連携ミスが減り、社内コミュニケーションがよりスムーズになるでしょう。

さらに、属人化の悩みも解決に近づきます。「あの人がいないと業務が止まる」「情報が個人PCにしかない」といったリスクを回避できれば、急な休暇や退職が発生しても業務が止まらず、誰でもバトンを引き継ぎやすくなります。個人への負担が偏らない環境は、社員が安心して働くうえでも大きなメリットです。

こうした理想像を描くと、一見「遠い未来の話？」と思う方もいるかもしれませんが、**実はこの姿を実現するカギが「RAG」のようなAI検索の仕組みにあるのです**（詳しくは第5章でご紹介します）。業務の根幹を支える情報をAIが素早く検索・提案し、リアルタイムの情報で支えてくれる——それによって今まで抱えていたモヤモヤや不安が、一気に解消される可能性があります。

「このままで大丈夫なのかな……」という漠然とした不安に終止符を打ち、新しい働き方や生産性向上を実現するための第一歩を、一緒に踏み出してみませんか。次章では、RAGがどのようにこの未来像を後押しできるのかを、より具体的にお伝えいたします。



5. GenU（RAGシステム）の概要

5-1. RAGシステムとは何でしょうか？

AI検索システムで社内情報を一元化して高速検索——RAGが変える次世代の情報活用

RAG（Retrieval-Augmented Generation）とは、AIモデル（LLM）が社内データベースやドキュメントをリアルタイムに参照しながら、より正確な回答を生成する技術です。

「GenU」は、このRAG機能をベースにしたAI検索システムで、従来の全文検索エンジンとは違い、質問形式で入力するだけでその質問に対する回答や要約を関連するリンクとともにAIが提示してくれます。

「漠然としたキーワード検索だけじゃ見つからない資料はどうしよう…」
AIが人間の会話のように理解し、自社の最新データを取り込みながら最適な答えを導き出す——これがRAGの最大の特徴です。

5-2. RAGの基本機能と特徴

GenUは、AWSのクラウド技術を活用しながら、「拡張性」「信頼性」「高精度な文意理解」を強みとするシステムです。RAGにおける主な機能は次のとおりです。

主な機能	特徴・利点
自然言語検索 & 会話インターフェース	キーワードだけでなく、質問形式でもOK。AIが回答を提案し、必要な資料へのリンクを自動で提示します。
ドキュメント索引	文書をベクトル化することで、曖昧な質問にも柔軟に対応。単純なキーワード検索にはない文意理解が可能です。
即時の反映	新たにアップロードした文書も簡単に反映可能で、最新の情報をAIが参照して回答します。
セキュリティ保護と信頼性	社内に閉じたデータで処理が行われるため、外部のAIツールに情報を提供するリスクがありません。

表1. RAGの主な機能と特徴

他の類似サービスと比べても、

1. 最新のドキュメントを組み合わせて回答できる
2. 単純な全文検索よりも高度なベクトル検索+LLMで曖昧な質問にも応えられる
3. 通常のチャット、要約、校正、翻訳など他の生成AIユースケースも利用可能

という点が大きな強みです。

5-3. RAG (GenU) の仕組み

RAGの仕組みを図示すると次の図のようになります。

1. ユーザーが質問を入力する
2. 質問の内容をもとにベクトルDBを検索する
3. (ベクトルDBは事前に特定のストレージ領域にアップロードしたファイルをもとに作成される)
4. ベクトルDBの検索結果をもとに生成AI (LLM) が回答を生成する
5. 回答内容がファイルへのリンクとともにユーザーに表示される

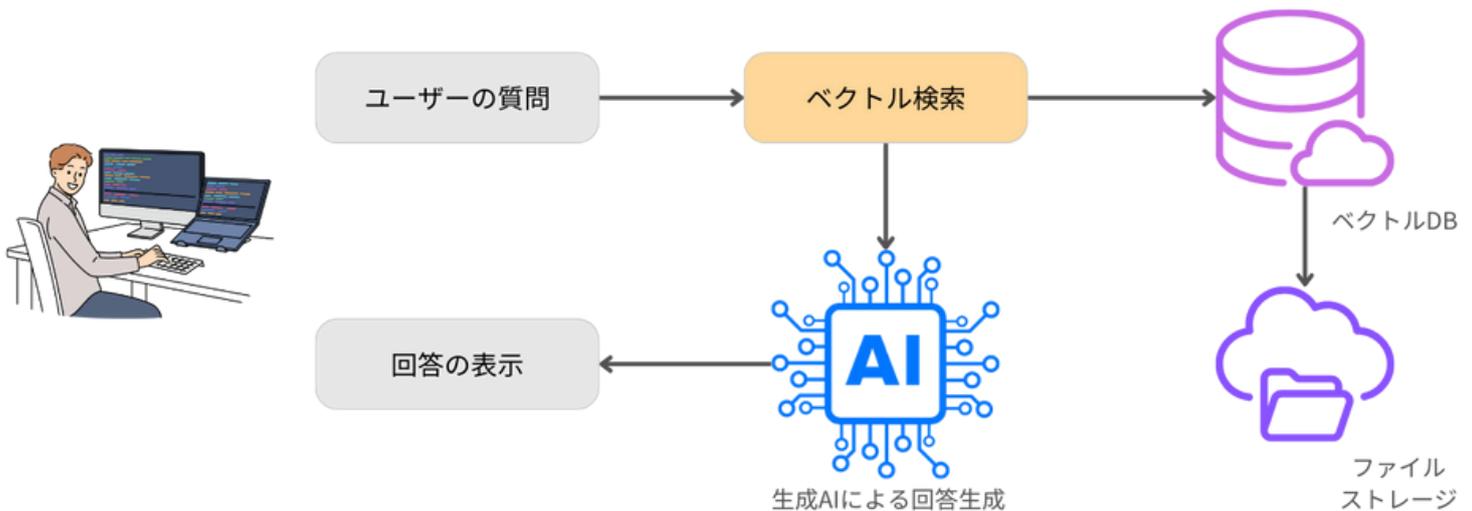


図1. RAGの仕組み

次に、実際にどのような活用例があるのかを見ていきます。

5-4. GenUの主な機能

GenUは、RAG以外のユースケースにも対応しています。
機能としては、次のものがあります。

ユースケース名	機能概要
チャット	大規模言語モデル（LLM）とチャット形式で対話して、利用することが可能。
RAG チャット	外部情報源（Amazon Kendra または Knowledge Base）を活用し、LLMが最新情報やドメイン知識を参照して回答。
Agent チャット	LLMがAPIと連携し、検索エンジンを利用して必要な情報を調査・回答するエージェント機能。
文章生成	記事、レポート、メールなど、さまざまなコンテキストに応じた文章を生成。
要約	大量の文章を要約し、対話形式で必要な情報を引き出す。例：契約書の特定条件や金額の抽出。
校正	誤字脱字のチェックや文章の流れ・内容の改善点を提案し、品質向上を支援。
翻訳	多言語間の翻訳を行う。
Web コンテンツ抽出	ブログやドキュメントなどのWebコンテンツを抽出し、不要な情報を除去して整形。抽出後のコンテンツは要約や翻訳などに利用可能。
画像生成	テキストや画像を元に新しい画像を生成。LLMによるプロンプト作成支援機能も提供。
映像分析	映像の画像フレームとテキストを入力として、LLMに分析を依頼。
ユースケースビルダー	プロンプトテンプレートを自然言語で記述することで、コード変更なしで独自のユースケース画面を自動生成。作成したユースケースは全ユーザーと共有可能。

表2. GenUの機能（ユースケース）

GenUの画面イメージです。



図2. GenUの画面イメージ (トップ)



図3. GenUの画面イメージ (RAGチャット)

6. 活用・使い方の具体例

6-1. どんな業務で使えるのでしょうか？

事務作業・総務部門

「〇〇マニュアルが見つからない…」 「△△の申請手順を教えてください…」
そんなとき、GenUに自然言語で質問するだけで、社内規程やマニュアルをピックアップしてくれます。新入社員からの問い合わせにもAIが回答案を提示するため、総務担当の皆さまの負担が大幅に削減されます。

営業部門

商談履歴、製品カタログ、成功事例…膨大なデータが日々生まれていませんか？
GenUでは、簡単な質問を入力するだけで、最適な情報をスピーディに得られます。
提案書作成がスムーズになったり、顧客からの問い合わせに対してもスピーディに回答することが可能になり、営業活動の成果向上に寄与いたします。

IT / 開発部門

仕様書、過去案件の要件定義書や設計書、コード、運用手順などがバラバラで、なかなか探せない…。
GenUなら、ベクトル検索で曖昧なキーワードからでも関連ドキュメントを抽出できるため、調査時間を大幅に短縮できます。
結果として、開発プロジェクトのスピードアップやバグ修正の効率向上につながります。

社内で扱う情報量が多いほど、RAGシステムを導入した際の効果を実感しやすいです。
※ 具体的な導入事例は、8章でご紹介しております。

6-2. 導入メリット・投資価値

費用対効果 / コストメリット

情報検索にかかる時間を平均40%削減できた場合（ある会社の実績値）。1人あたりの業務効率アップが社員数×時給換算されると、年間数百万円以上のコスト削減につながる場合もあります。

チャットボットやRPAだけではカバーできない高度な情報検索 + 回答生成を実現するため、導入のROI（投資回収期間）も比較的短期間で見込めます。

業務効率化の効果

担当者不在でも必要な情報を即座に検索でき、属人化のリスクを大幅に低減します。日々のルーチン作業に割かれる時間が減ることで、現場のストレスが軽減され、社員のモチベーションアップにもつながります。

6-3. 導入実績

とあるお客様では情報共有にかかる時間が50%以上削減、また別のお客様では特定のコード開発業務を40%効率化、といった事例が見られます。詳細は、8章でご紹介いたします。

6-4. 導入の4つのステップ

a. 社内の課題を明確化

まずは、現状の課題を洗い出すことから始めましょう。

「情報がどこにあるかわからない」

「必要な情報を見つけるのに時間がかかる」

「特定の人に頼りきりになっている」

など、チームが日々感じているストレスをリストアップします。これが、導入の方向性を決める第一歩です。

b. 必要なデータを整理

次に、どのデータをRAGで活用したいのかを決めます。

業務マニュアル

プロジェクト資料

FAQやナレッジベース

など、社内文書を整理し、RAGが正しくアクセスできるように準備します。データがバラバラに保存されている場合は、統一フォーマットにすることをおすすめします。

c. テストと評価

準備が整ったら、テストと評価を行います。ここでは、以下の点を確認しましょう：

情報が正確に引き出されているか

操作が簡単で、誰でも使いやすいか

現場で実際に役立つ成果が出ているか

フィードバックをもとに、必要に応じて改善を加えていきます。

d. 実際の導入プロセスと注意点

テストが成功したら、いよいよ全社導入です。

導入時にはトレーニングセッションを設け、チーム全体に使い方を共有します。

さらに、導入後も定期的に利用状況をチェックし、必要に応じて調整を行うことで、継続的な改善が可能になります。

6-5. 導入前に確認したい6つのポイント

RAG導入のポイントをしっかり押さえることで、スムーズな導入と確実な成果につなげることができます。以下のチェックリストを参考に、準備を進めていきましょう。

チェックリスト：RAG導入前に準備しておくべき6つのポイント

- 解決したい課題が明確になっているか？
- 活用したいデータの種類と範囲を決めているか？
- データの形式が整理されているか？
- チーム内での利用目的や期待値を共有しているか？
- テストで試すためのサンプルデータが準備されているか？
- 成果を測定するための指標（例：時間削減率、業務効率化率）が定義されているか？

RAGの導入は、少しの準備を行えば、簡単に進めることができます。このガイドを参考にぜひ一歩を踏み出してください。



7. 比較・選定のための情報

7-1. 他のツールやとの比較

項目	GenU	従来の全文検索	シンプルなチャットAI/FAQ
回答の正確性	「LLM+ベクトル検索」で最新ドキュメントも参照可能	キーワード依存で精度に限界がある	FAQに登録されていない質問は対応不可
リアルタイムアップデート	新しい文書をアップロードして同期ボタンを押すだけ。反映済みの最新情報をもとに回答	定期的なインデックス再構築が必要	固定のシナリオで応答が変更しにくい
文言の理解力	曖昧な質問にも柔軟に対応	完全一致の単語検索しかできない	基本的には登録Q&Aにマッチするか否か
拡張性 (要約・校正・翻訳等)	RAG以外の生成AI機能も併用可能。(チャット、文章生成、要約、校正、翻訳、Webコンテンツ抽出、画像生成、映像分析、記事作成、議事録作成)	特化機能追加には別途開発が必要	要約や翻訳など別途API利用が必要な場合が多い

表3. 他のツールとの比較

「AI検索で最新情報を取り込みながら柔軟に回答してくれる」点が、従来ツールとの大きな違いです。



7-2. 業界・部署特化への応用

a. 法律事務所・法務部門

- 判例・法令・契約書のベクトル検索
 - 膨大な条文や判例データベースを一括管理。類似した事例や判例の検索が可能。
 - 契約書を要約したり、過去の事案との比較もスピーディに実施できる。

b. 医療・製薬業界

- 論文・学会資料・症例レポートを横断検索
 - 新しい治療ガイドラインや研究結果をベクトル検索により高速探索。
 - 適切な文献を提示するため、研究開発や臨床業務の効率化に寄与。

c. 製造業・R&D部門

- 設計図面・仕様書・マニュアルの一元管理
 - 製品仕様が社内が多数あっても、RAGシステムがテキスト抽出＋関連資料リンクを提示。
 - 類似製品の設計履歴や過去プロジェクトのノウハウを横断的に参照し、開発スピードを向上。

d. 金融・保険業界

- 顧客データや規制資料のセキュア検索
 - 規制文書（金融庁ガイドラインなど）や過去の商品パンフレットをまとめて検索。
 - 顧客問い合わせに対し、迅速に関連商品やFAQを提示して、コールセンター対応を効率化。

e. 公共・行政機関

- 膨大な公文書・議事録の検索/要約
 - 議事録や条例をベクトル検索し、過去の政策事例と関連付けて提示。
 - 市民からの問い合わせに対し、該当の公文書を引用して回答する仕組みも構築できる。

f. マーケティング部門

- ブランドガイドライン・過去キャンペーン事例の一元化
 - 過去のSNS投稿やキャンペーン資料をAIが検索＆要約。再利用・アイデア出しに時間をかけずに済む。
 - 各市場やターゲット層のレポートをベクトル検索し、新規プロモーションのヒントを得る。

g. 営業部門

- 顧客情報・提案書の活用
 - 商談履歴や契約書、製品資料などがバラバラでも、AIが最適な資料を抽出。提案活動がスピーディに。
 - AIによる応答生成で、顧客のよくある質問にも適切に回答し、営業フローをサポート。

h. 人事・総務部門

- 就業規則・社内マニュアル・福利厚生情報の即時検索
 - 入社手続きや社内制度に関する問い合わせに、AIがドキュメントを引用して回答を生成。
 - トレーニング資料・研修動画と連携して、新人教育コストを低減。

i. 教育・eラーニング

- 教材・論文・過去試験問題などを横断検索
 - 講師用・受講者用の資料から、AIが内容を要約・関連付けて提示。
 - 学習者の質問に対し、該当教材への直接リンクや補足説明を自動で作成。

様々な業界・部署で大量の文書を管理するシーンに、GenUのRAGシステムが力を発揮いたします。

具体的な導入事例は、8章でご紹介しております。



8. 導入事例・レビュー

8-1. A社（情報通信・インターネット）

課題の内容

- 約1万件の専門性が高いドキュメント（契約書・技術情報・規制情報・FAQ等）を横断的に調査・回答する必要があり、対応に1時間ほどかかることも多かった。
- ベテラン社員（15年以上の経験者）でなければ答えられない問い合わせが多く、属人的で効率が悪い。

導入効果

- 回答時間が「1時間→1分～2分」に短縮し、熟練者でなくても3年目の社員が回答できるようになり、人材活用の幅が拡大。
- LLM（Large Language Model）関連のコストが3分の1に、RAG（検索拡張生成）と組み合わせることでさらなるコストや時間削減を実現。

8-2. B社（機械（重電））

課題の内容

- 4,000人規模の社員が利用する議事録作成・規程検索・チャット・画像生成などの生成AIユースケースが必要であった。

導入効果

- 運用開始2か月後には1日あたり平均200人が利用し、部署を越えて高評価を得ている。
- 社内全体でセキュアな生成AI利用環境を実現し、効率的かつ安全な業務遂行が可能となった。

8-3. C社（情報通信・インターネット）

課題の内容

- マーケター自身がマーケティング業務と記事のリライト（再執筆）業務を同時に行う必要があった。
- エンジニア人数が少なく、AI環境構築に十分なリソースを割けないまま、手作業による執筆・編集に時間が取られていた。

導入効果

- リライトを生成AIとRAGがサポートすることで、記事リライト業務が70%削減。
- Webメディア記事のドラフト生成やチャットボットによる質問回答も可能となり、メインの業務が効率化された。
- 社内の公式生成AIを使える環境とすることで、生成AIのシャドー利用を防ぐことができた。

8-4. D社（製造業）

課題の内容

- GPTベースの社内向けAIアシスタントを導入していたが、議事録作成など様々なユースケースに完全対応できず、追加開発が必要だった。
- 既存システムでは文字数制限や拡張性の課題があり、大量の技術情報や検索が必要な場面では不十分であった。

導入効果

- RAG（検索拡張生成）を採用し、議事録作成時間が75%削減。（年間1万5000時間相当の削減を見込む）
- 従来システムよりも機能が拡張され、利用者数が1.5～2倍に拡大。

8-5. E社（製造業）

課題の内容

- 利用部門では、製品書類が溢れており、どの文書に必要な情報が書かれているか分からず困難であった。既存情報を活かせないまま、重複作成で情報量が膨張していた。
- 過去の会議議事録も分散しており、参照するたびに探し回る時間がかかっていた。

導入効果

- ベクトル検索により、議事録内容などのテキストを素早く検索できるようになり、重複作業や文書の再作成が減少。
- 紙の文書やメモレベルの情報も取り込みやすくなり、共有のハードルが下がった。

8-6. F社（生活・公共サービス）

課題の内容

- 在宅介護サービスで、ケアプラン作成や報告書の作成・情報共有が煩雑。非エンジニアのスタッフが多いため、ITシステム開発のリソースも限られていた。
- 定期的な記録や家族・医師との連携に時間がかかり、本来の介護サービス改善や企画に十分注力できない状況が続いていた。

導入効果

- ケアプラン作成時間が平均30%短縮し、関係者間の情報共有にかかる時間も50%以上削減。
- 月次報告書の作成時間が75%削減され、1人あたりに換算すると5分程度で完結するようになった。
- 浮いた時間を新たなサービス改善や顧客満足度向上の取り組みに充てられ、ユーザー満足度が上昇。

9. 結論

いかがでしたでしょうか？

「すぐにデモを見てみたい」「導入の具体的なステップを相談したい」という方は、どうぞ、[リンク先](https://hikutas.com/contact?pagetype=trial-purchase) (https://hikutas.com/contact?pagetype=trial-purchase) からお気軽にご連絡ください。

(または、contact@hikutas.com までメールにてお問い合わせください。)

デモ、トライアルの申込、導入に伴うご相談などは、全て無料で承っております。私たちは無理な売り込みをするつもりは一切ございませんので、知りたいことや不安なことがあれば、ぜひ遠慮なくお尋ねいただければと思います。

また、RAGに限らず、AI活用や業務効率化に関するご相談があれば無料で相談に乗っております。合わせてご検討ください。

少しでも「こういう仕組みがあったら良いかも」「自社の業務でも役立ちそう」と感じられたなら、ぜひ一度お話を聞かせてください。お待ちしております。

